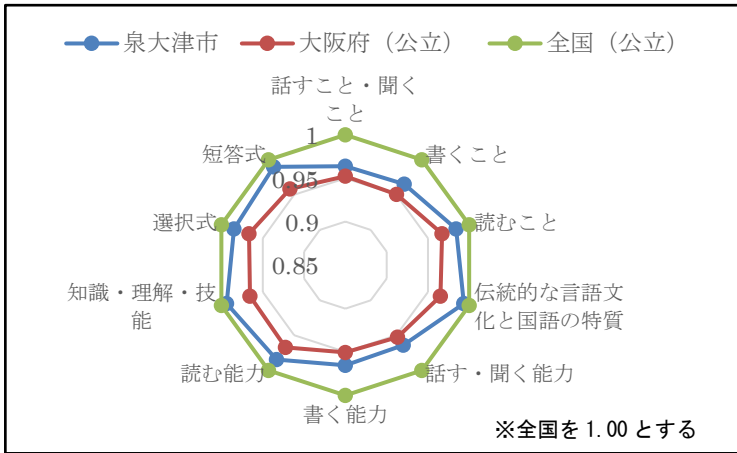


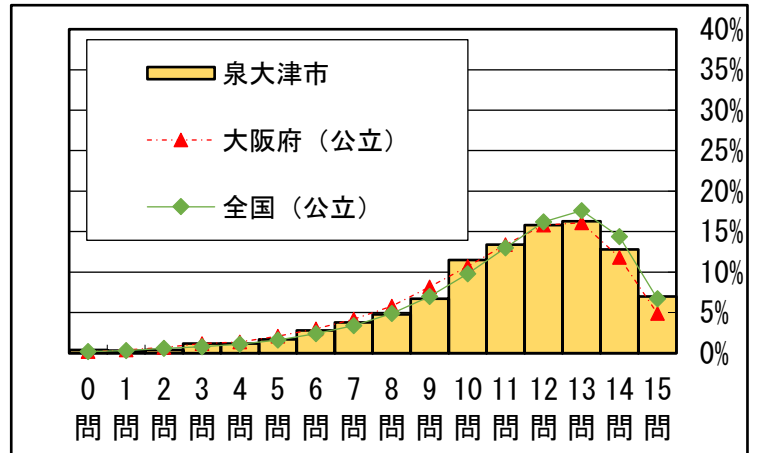
全国学力調査結果の詳細

小学校 国語 A (主として「知識」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

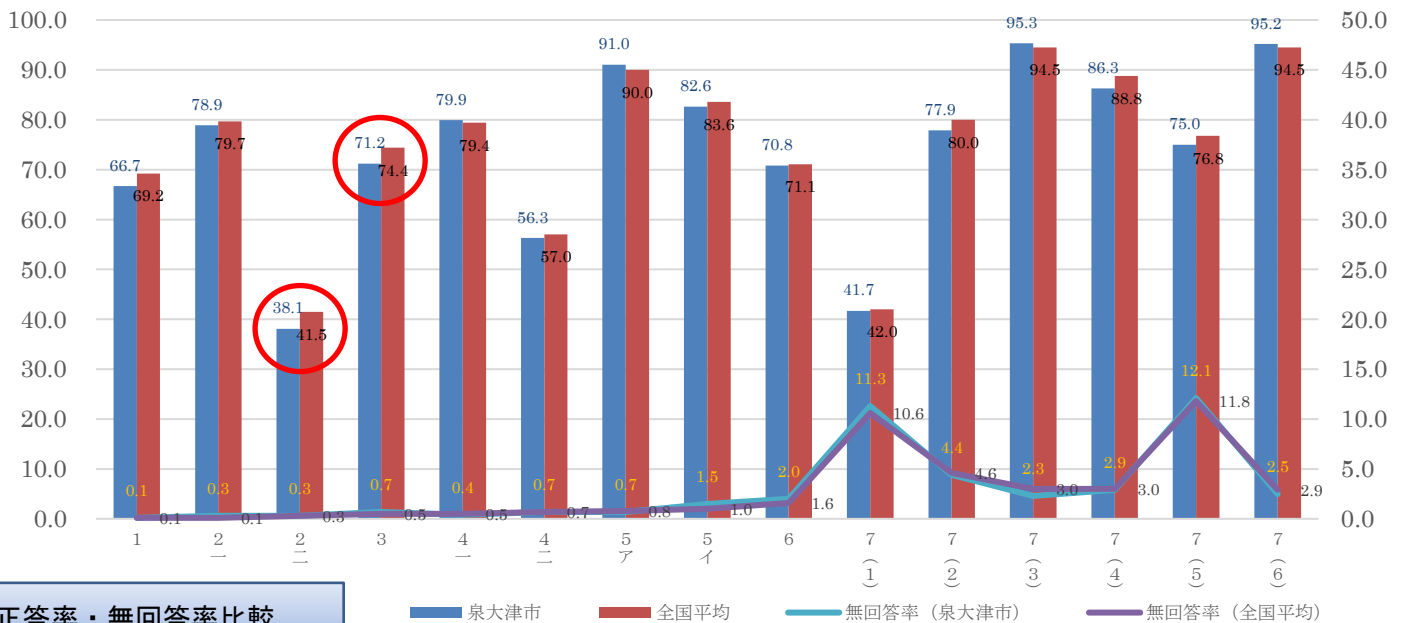


正答数分布



すべての項目で、全国平均を下回っている。
「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がある

全国・府と同様に正答数13問を頂点とした山型分布となっているが、本市は、12・13・14問正答数は全国より少ない。



成果及び課題のみられた問題

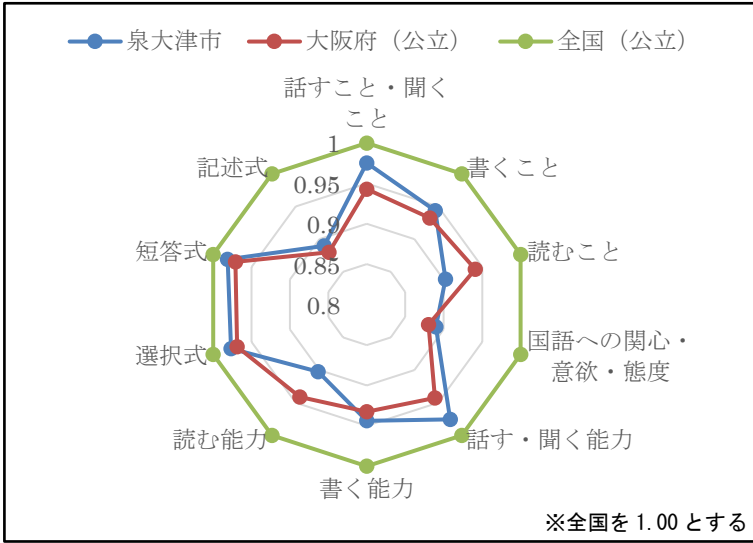
- ◇無答率が全国平均の+1p未満にとどまっている【全ての問題】
- ◆手紙の構成を理解し、後付けを書く【2二】
- ◆目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む【3】

◇ : 成果 ◆ : 課題
【 】 : 設問番号

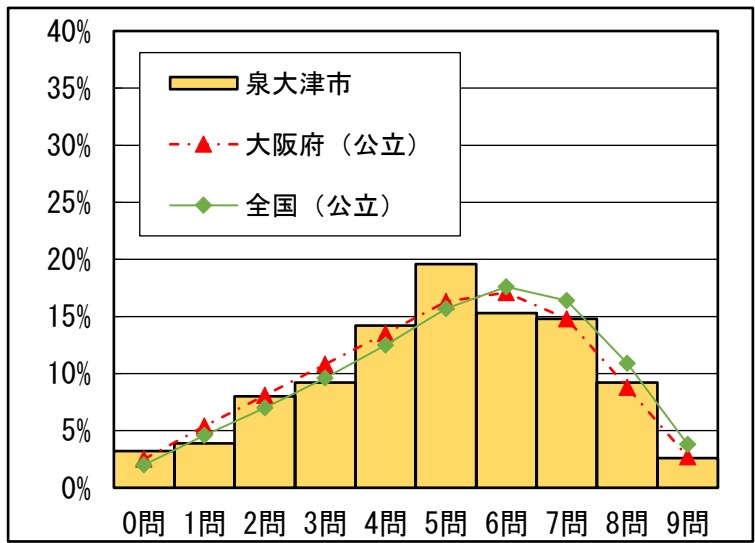
小学校 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

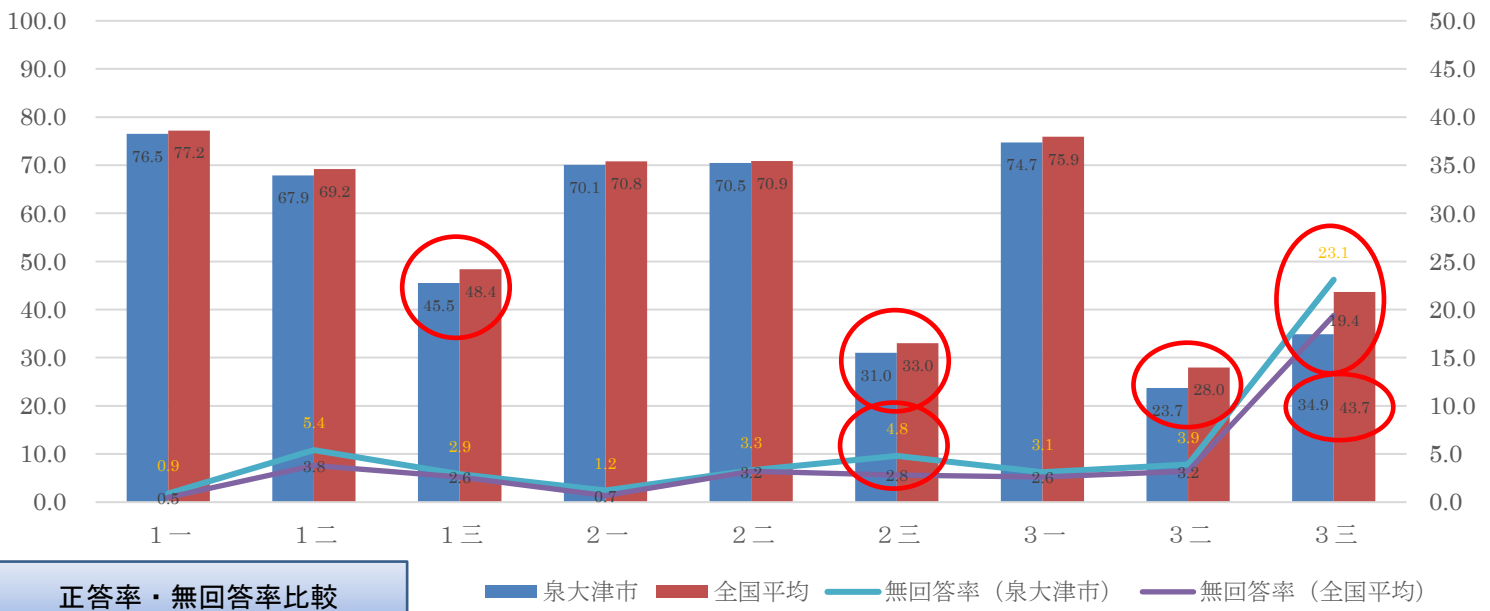


正答数分布



「読む能力」「読むこと」に課題がある。
 「記述式」の問題形式に課題がある。
 「国語への関心・意欲・態度」に課題がある。

全国・府は正答数6問を頂点とした山型分布であるが、本市は正答数5問を頂点とした分布であり、上位層が少ない。



成果及び課題のみられた問題

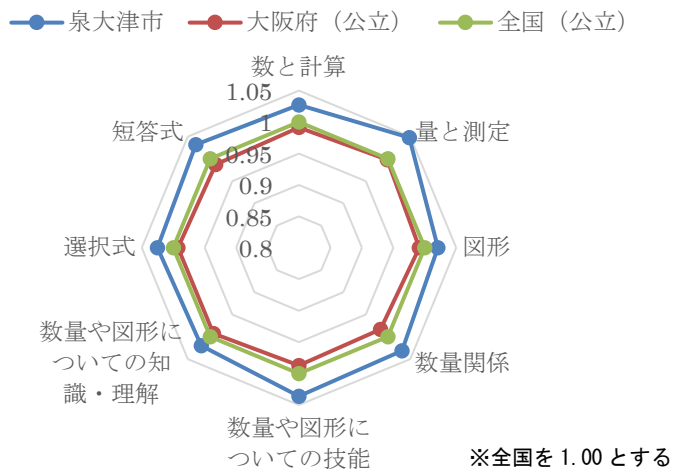
- ◆ 目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す【1三】
- ◆ 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く【2三】
- ◆ 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える【3二】
- ◆ 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる【3三】
- ◆ 【1三】【2三】【3三】は、共通して「記述式」問題形式で、無回答率も全国平均より高い。

◇ : 成果 ◆ : 課題
 【 】 : 設問番号

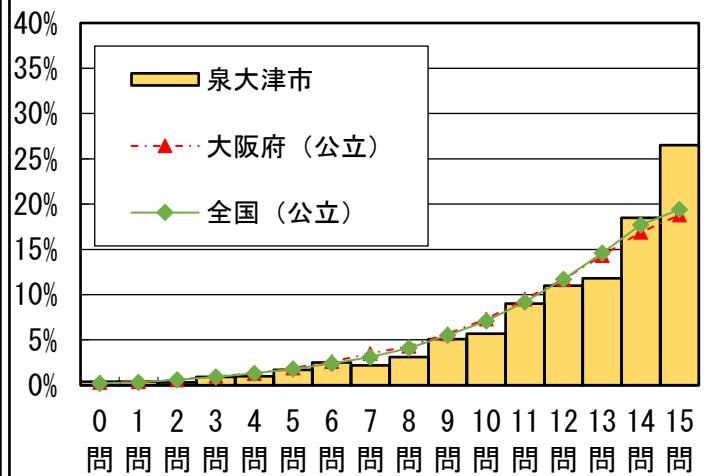
小学校 算数 A

(主として「知識」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

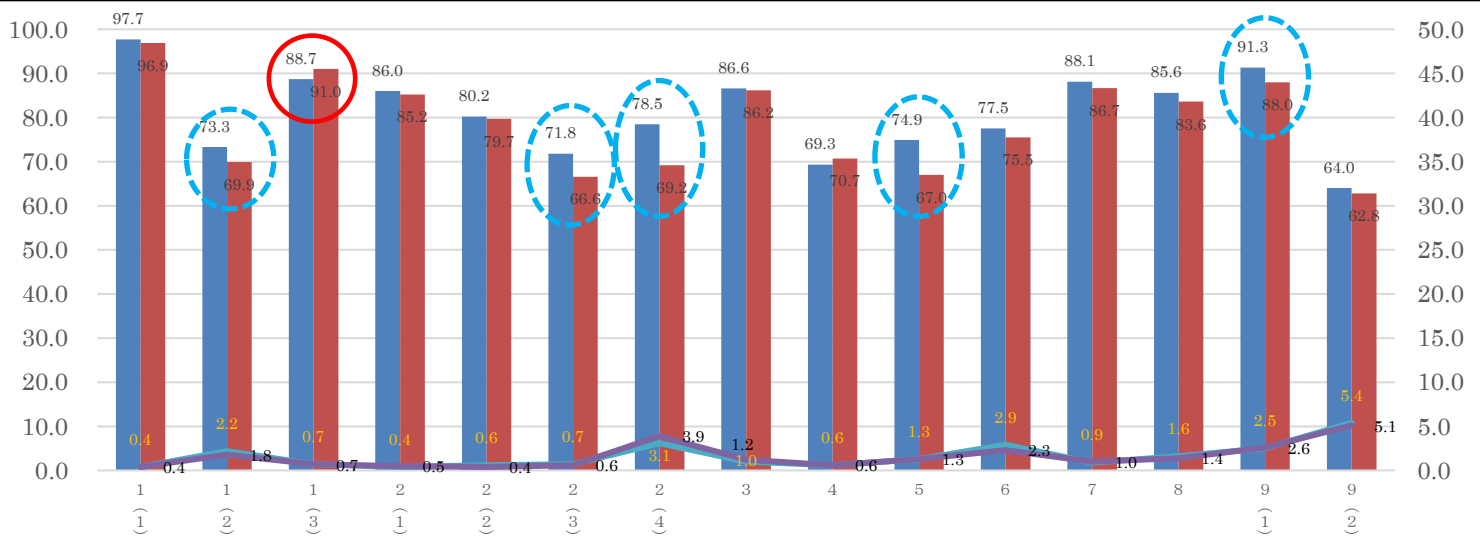


正答数分布



全ての領域・観点・問題形式において全国平均を上回っている。

正答数15問が全国平均を大きく上回っている。
正答数が全国にくらべて、右寄りの山型の分布となっている。



正答率・無回答率比較

成果及び課題のみられた問題

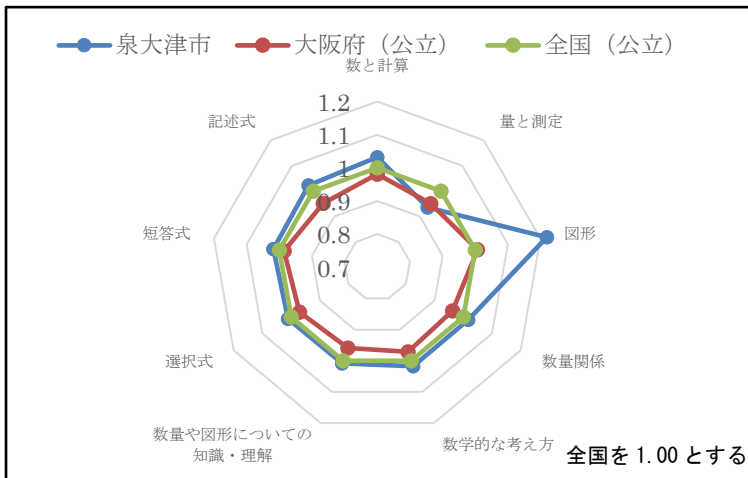
- ◇ 1 より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる【1(2)】
- ◇ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる【2(3)】
- ◇ 商を分数で表すことができる【2(4)】
- ◇ 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している【5】
- ◇ 資料を二次元表に分類整理することができる【9(1)】
- ◆ 小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解している【1(3)】

◇ : 成果 ◆ : 課題
【 】 : 設問番号

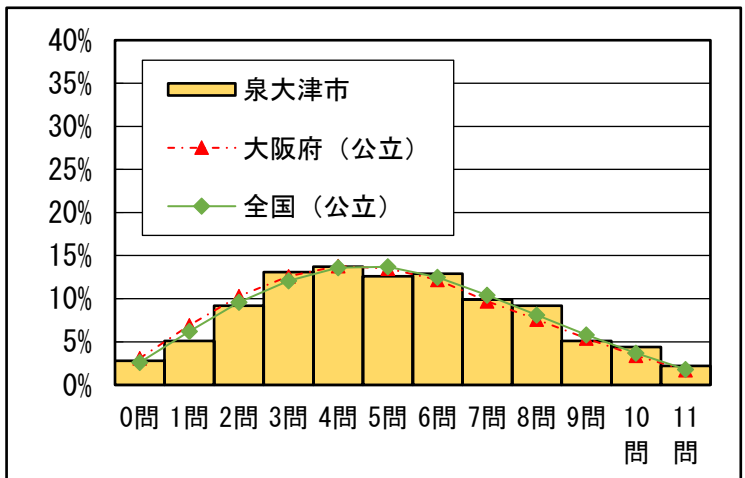
小学校 算数 B

(主として「活用」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

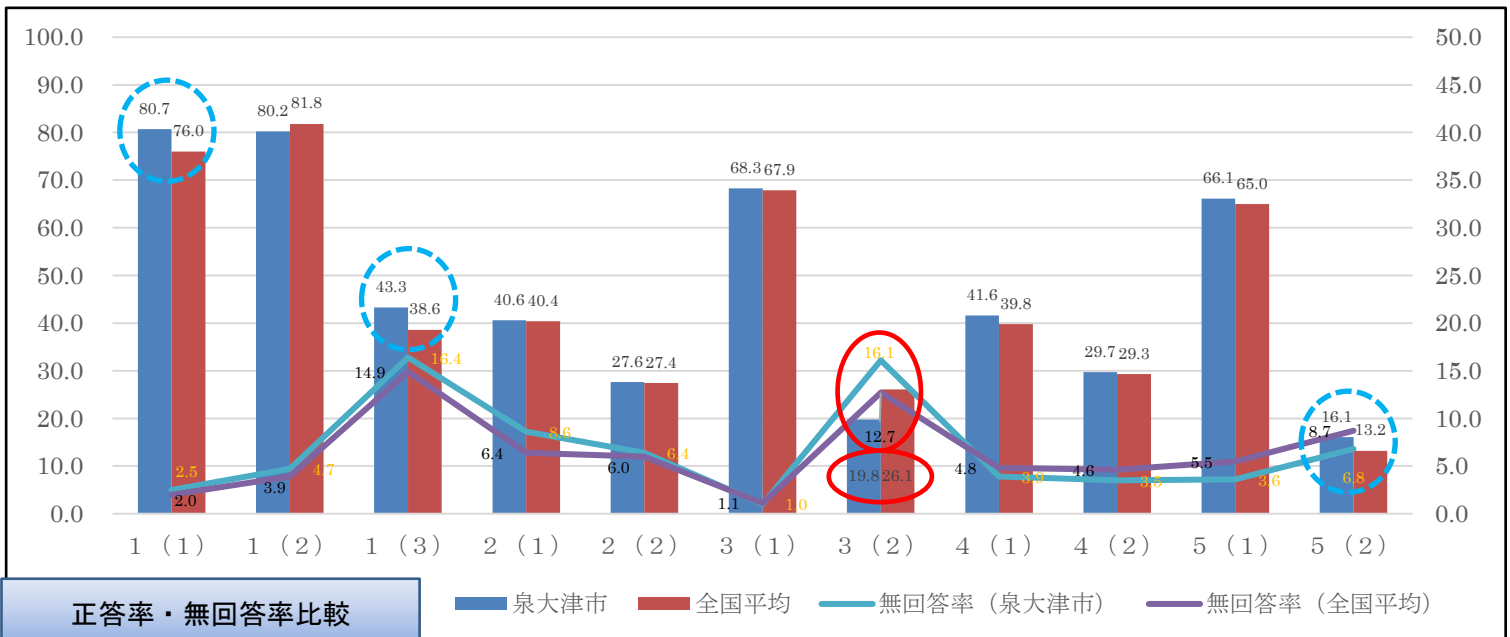


正答数分布



ほとんどの項目で全国平均と同程度、または超えている。特に「図形」領域は全国平均より大きく上回っている。「量と測定」に課題がある

全国が正答数5問を頂点とした分布に対し、本市は4問を頂点としている。正答数の分布は1問は全国より少なく、6問・8問・10問・11問は全国より多い。



成果及び課題のみられた問題

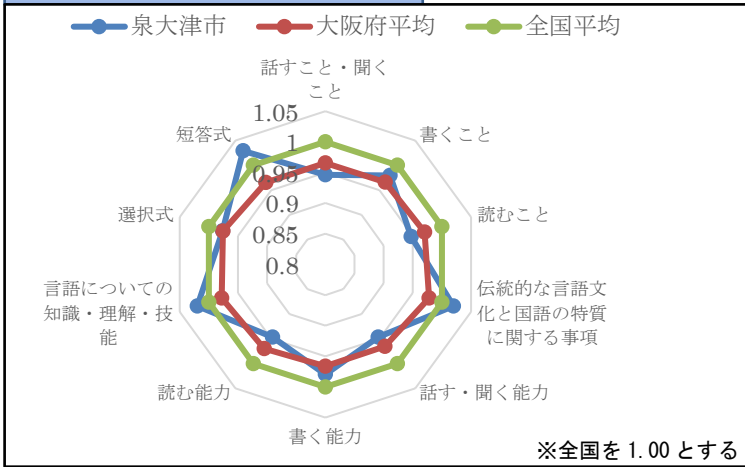
◇ : 成果 ◆ : 課題
【 】 : 設問番号

- ◇示された条件を基に、適切な式を立てることができる【1(1)】
- ◇問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる【1(3)】
- ◇身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる【5(2)】
- ◇「記述式」問題形式(【1(3)】【2(1)】【4(1)】【5(2)】)でも、正答率が全国を上回っている(【3(2)】は全国を下回る)ことから成果が出ている。
- ◆仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる【3(2)】

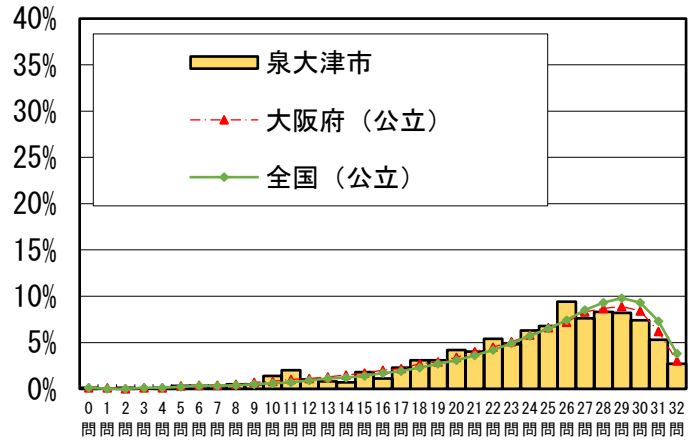
中学校 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

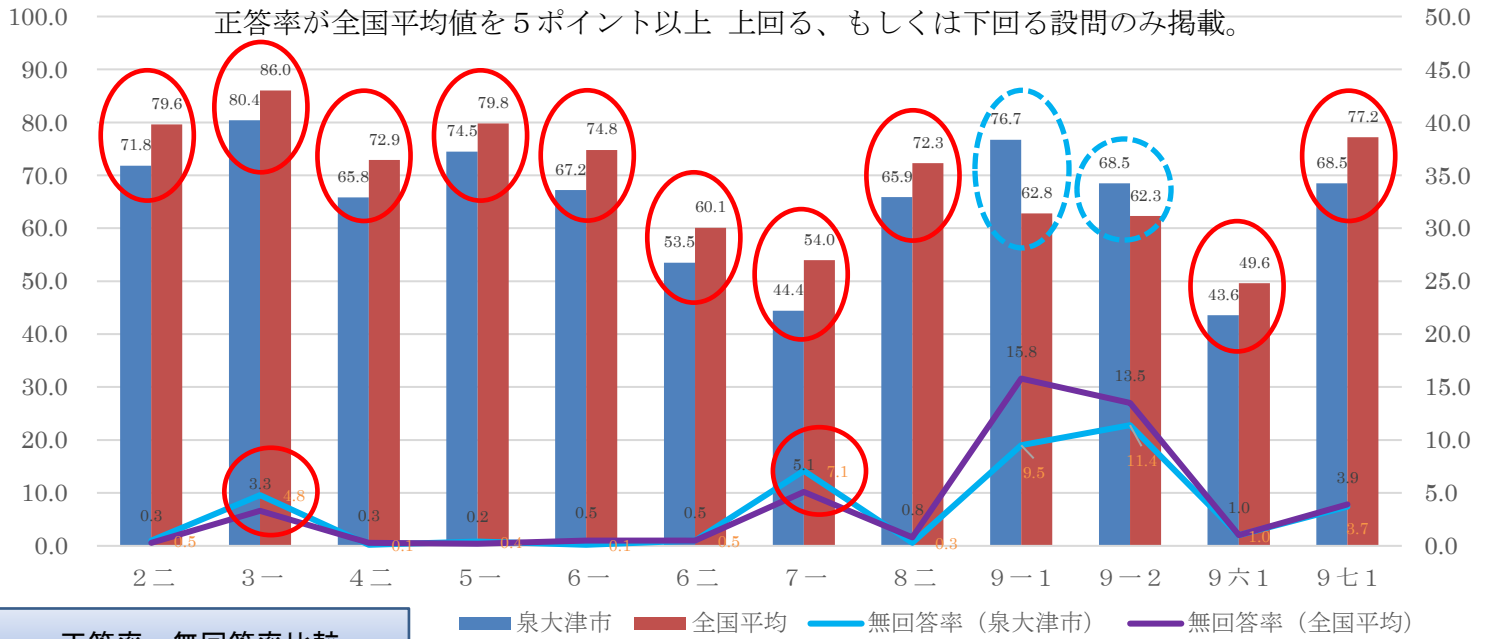


正答数分布



「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がある。
「言語」についての領域・観点で全国を上回る。

上位層が少ない。全国・府が正答数 29 問を頂点とした山型分布に対して、本市は 26 問と 28 問を頂点とした二山分布になっている。



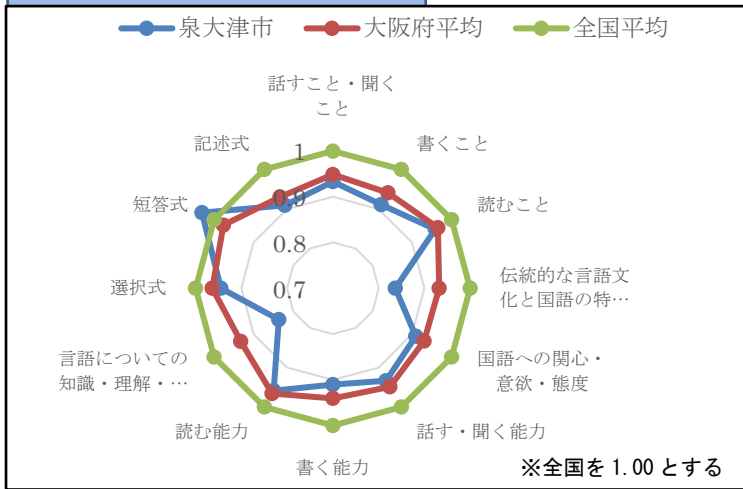
成果及び課題のみられた問題

- ◆ 事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す【2二】
 - ◆ 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ【4二】
 - ◆ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する【6一・6二】
 - ◆ 相手に分かりやすいように語句を選択して話す【7一】
 - ◆ 文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする【8二】
 - ◇ 文脈に即して漢字を正しく書く【9一1】【9一2】
 - ◆ 楷書と行書との違いを理解する【9六1】
 - ◆ 古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える【9七1】
 - ◆ 書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く【3一】
 - ◆ 文章の構成を工夫して分かりやすく書く【5一】
- ◇ : 成果 ◆ : 課題
【 】 : 設問番号

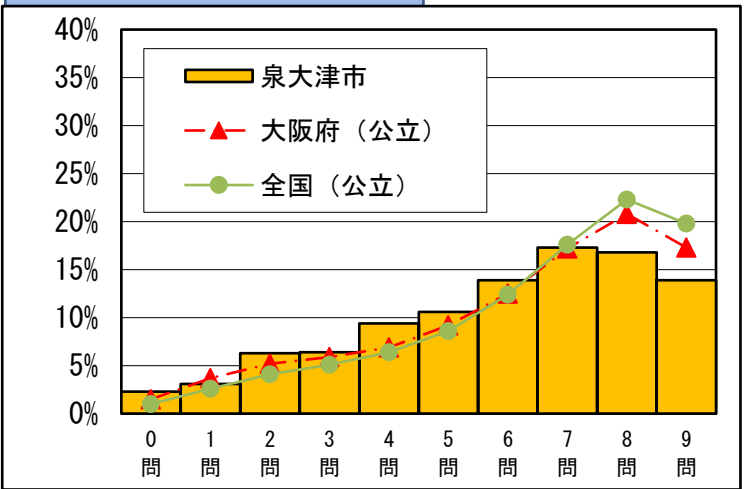
中学校 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

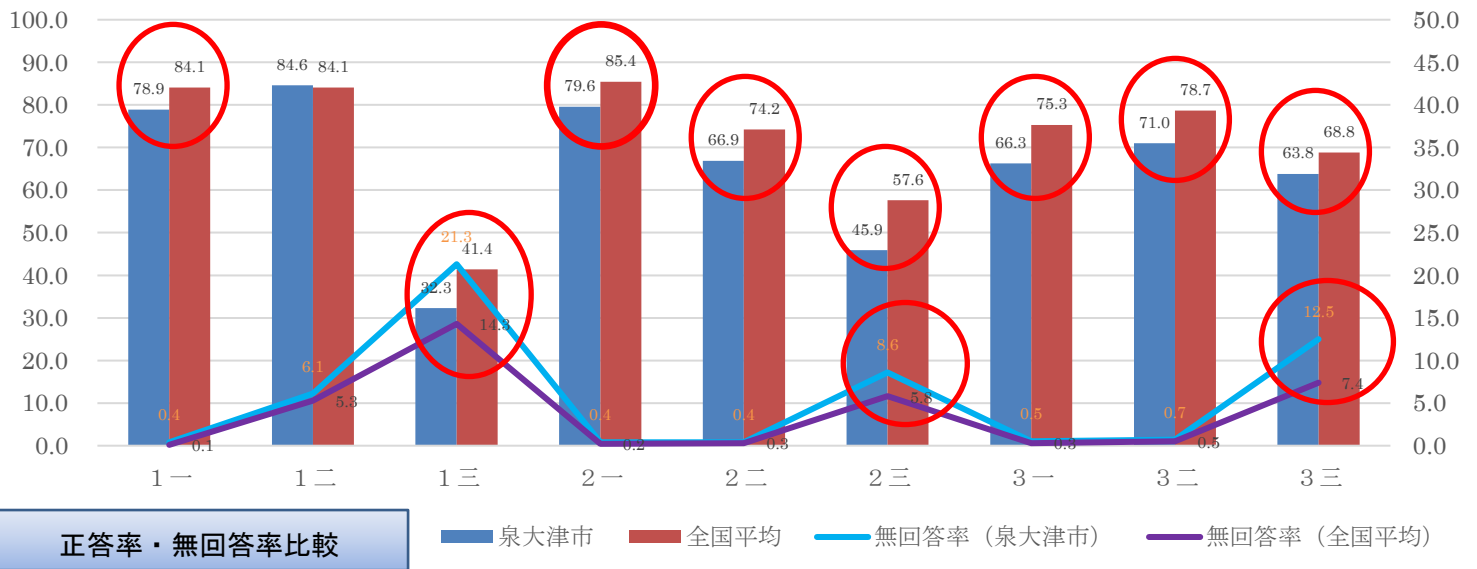


正答数分布



「書くこと」「記述式」に課題がある。
 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」は、設問が1問ずつであったが課題がある。

上位層が、全国・大阪府にくらべて少ない。
 7問を頂点とした山型分布で、全国に対して左よりの山型になっている。



成果及び課題のみられた問題

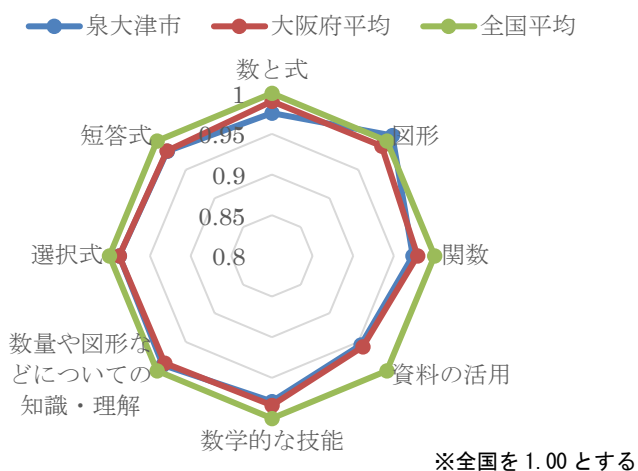
◇ : 成果 ◆ : 課題
 【 】 : 設問番号

- ◆登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する【1一】
- ◇場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する【1二】
- ◆表現の仕方について捉え、自分の考えを書く【1三】
- ◆目的に応じて資料を効果的に活用して話す【2一】
- ◆話の論理的な構成や展開などに注意して聞く【2二】
- ◆相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す【2三】
- ◆集めた材料を整理して文章を構成する【3一】
- ◆目的に応じて必要な情報を読み取る【3二】
- ◆必要な情報を集めるための見通しをもつ【3三】

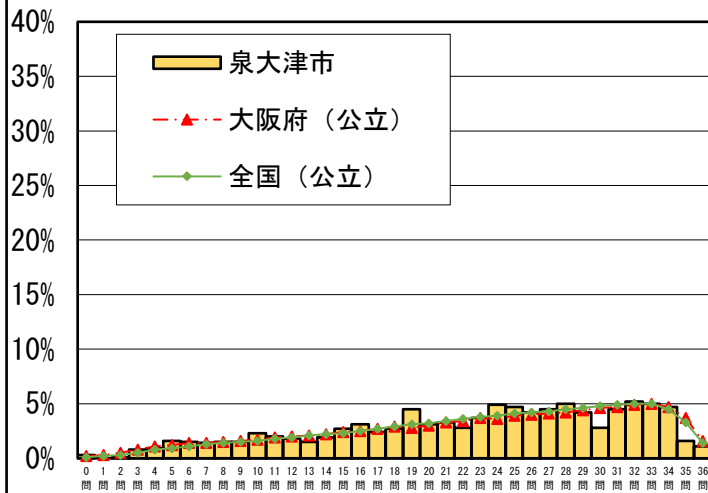
中学校 数学 A

(主として「知識」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

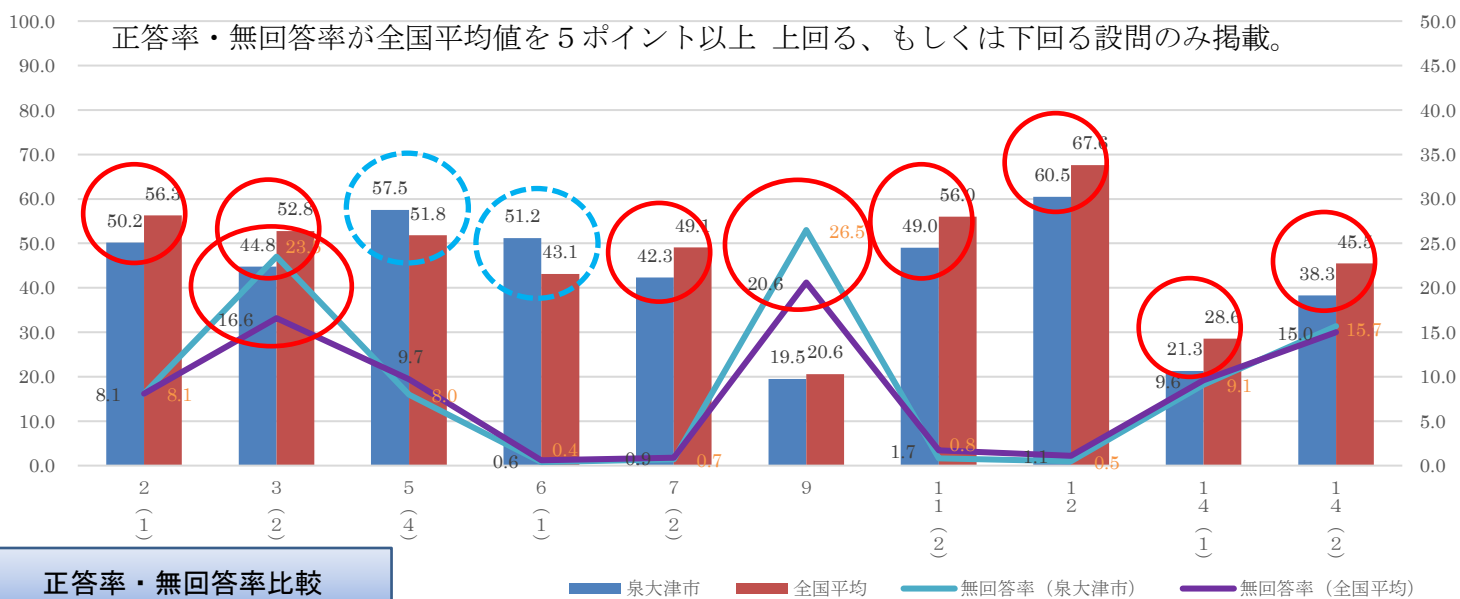


正答数分布



「図形」領域は全国平均を超えているものの、それ以外の領域・観点・問題形式に課題がある。

35問・30問が全国に比べて少ない。
全国・府が正答数33問を頂点とした山型分布に対し、本市は凸凹が見られる分布をしている



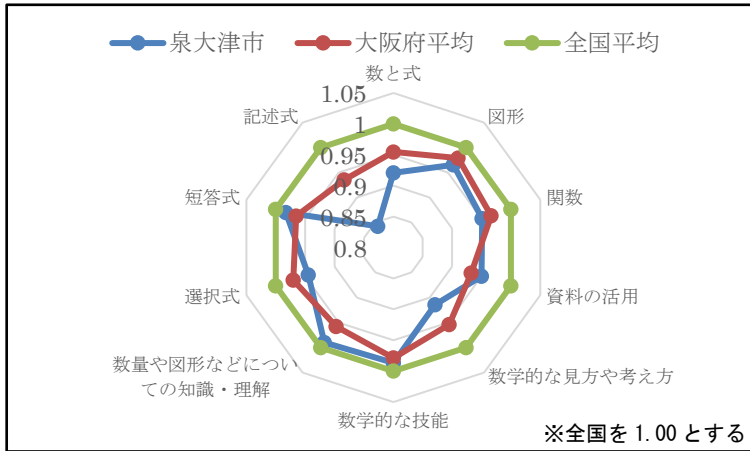
成果及び課題のみられた問題

- ◆数量の関係を文字式で表すことができる【2(1)】
- ◆具体的な場面で、一元一次方程式をつくることことができる【3(2)】
- ◇円柱の体積を求めることができる【5(4)】
- ◇錯角の意味を理解している【6(1)】
- ◆作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している【7(2)】
- ◆関数の意味を理解している【9】
- ◆与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している【11(2)】
- ◆具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる【12】
- ◆範囲の意味を理解している【14(1)】
- ◆与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる【14(2)】

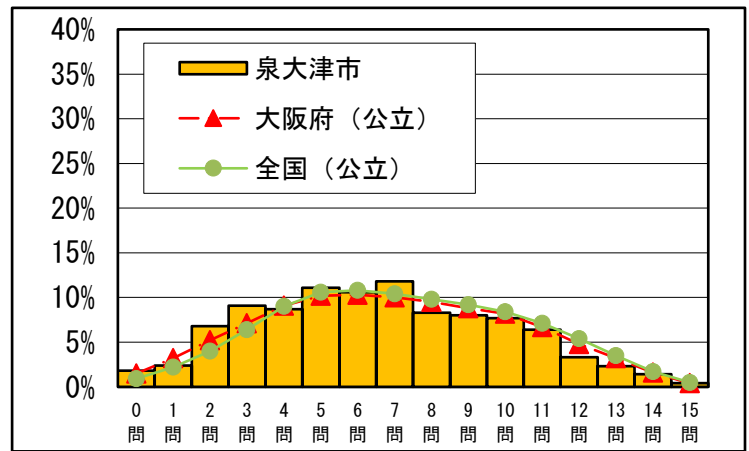
中学校 数学 B

(主として「活用」に関する問題)

領域・観点・問題形式別

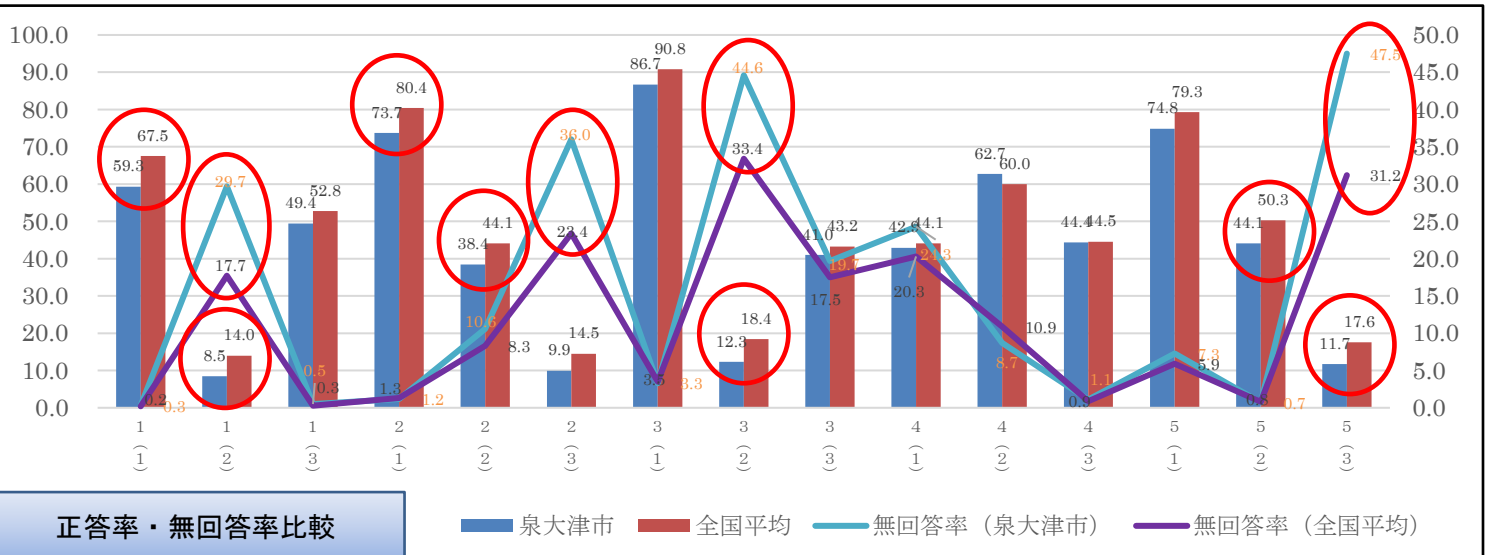


正答数分布



「数学的な見方や考え方」・「記述式」問題形式について特に課題がある。

全国・府が正答数6問を頂点とした山型分布に対し、本市は5問と7問を頂点とした左よりの二山分布である。



成果及び課題のみられた問題

- ◆事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる【1(1)】
- ◆2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる【1(2)】
- ◆問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる【2(1)】
- ◆与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる【2(2)】
- ◆事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる【2(3)】
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる【3(2)】
- ◆与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる【5(2)】
- ◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる【5(3)】
- ◆【1(2)】【2(3)】【3(2)】【4(1)】【5(3)】は「記述式」問題形式で、【4(1)】以外は、無答率が全国より10ポイント以上高い。